

令和6年11月6日
文教委員会資料
指導課

令和6年度品川区学力定着度調査および令和6年度全国学力・学習状況調査の結果について

○令和6年度品川区学力定着度調査の結果について

○令和6年度全国学力・学習状況調査の結果について

令和6年11月6日
文教委員会資料
指導課

令和6年度品川区学力定着度調査の結果について

- 1 調査日** 令和6年4月16日(火)
2 調査対象 小学校・義務教育学校（前期課程）
中学校・義務教育学校（後期課程）
3 調査対象人数 第2～6学年 14,193人
第7～9学年 4,767人
4 調査内容
(1) 教科に関する調査
第2、3学年 国語、算数
第4、5学年 国語、社会、算数、理科
第6学年 国語、社会、算数、理科、英語
第7～9学年 国語、社会、数学、理科、英語
(2) 生活習慣や学習環境に関する調査
・総合質問紙調査〔自己認識、社会性、学級環境、生活・学習習慣に関する意識について〕

5 各教科の平均正答率(%) ※黄色の部分は、全国より高い正答率。ピンク色の部分は、全国より低い正答率。

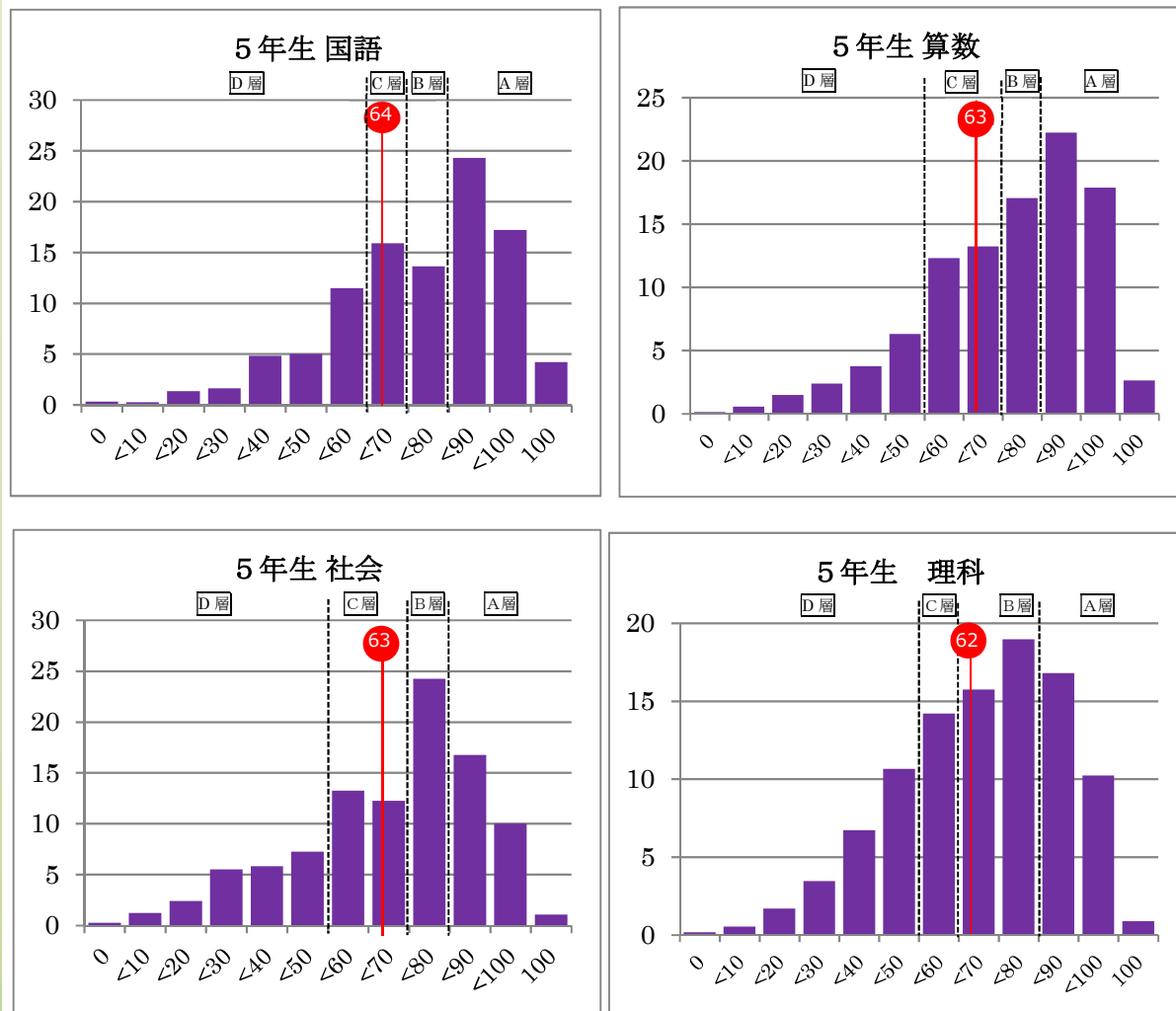
<第2学年>			<第4学年>			<第5学年>			<第6学年>			<第7学年>			<第8学年>			<第9学年>		
	品川区	全国		品川区	全国		品川区	全国		品川区	全国		品川区	全国		品川区	全国		品川区	全国
国語	77.4	72.0	国語	76.8	73.4	国語	72.4	64.9	国語	73.3	67.2	国語	64.2	61.3	国語	67.6	65.1	国語	71.4	67.9
算数	80.6	76.2	社会	68.6	66.8	社会	65.2	60.2	社会	67.1	62.8	社会	51.6	52.4	社会	48.9	50.0	社会	52.3	53.0
<第3学年>			算数	77.8	72.1	算数	70.5	64.0	算数	69.8	61.7	数学	66.8	64.4	数学	60.5	54.7	数学	60.0	50.8
	品川区	全国	理科	58.0	55.2	理科	63.8	60.7	理科	62.5	60.3	理科	64.6	67.0	理科	54.5	56.0	理科	50.9	50.5
国語	76.0	72.8							英語	81.8	77.0	英語	81.5	76.8	英語	58.7	52.7	英語	57.4	50.9
算数	81.2	78.0																		

6 教科に関する調査の結果概要

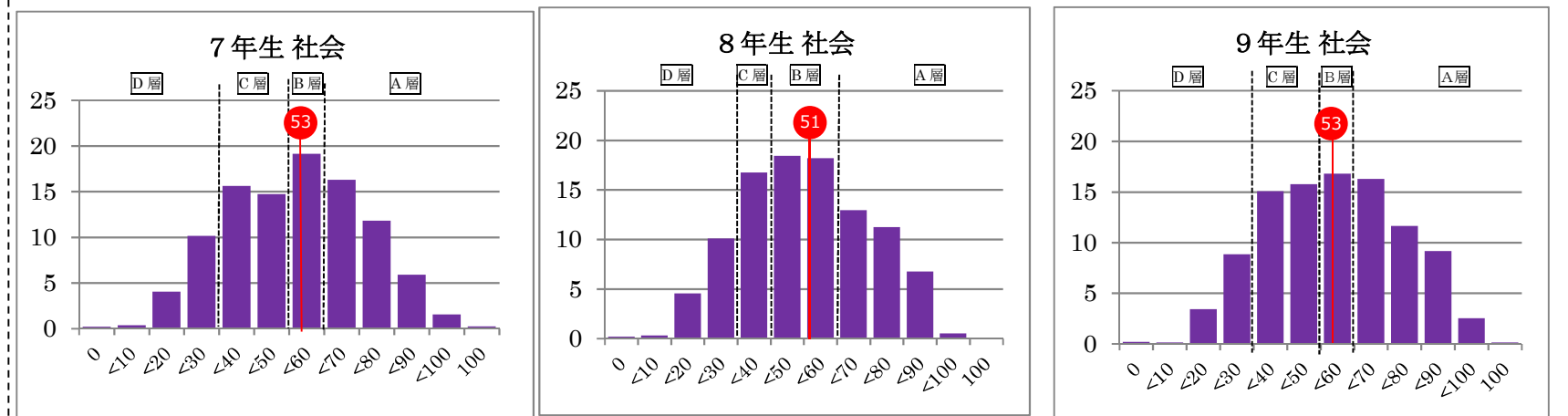
品川区正答率分布の四分位：上位層（A層）から下位層（D層）までの25%刻みで4層に分類した。赤字および赤線は、その教科の目標値(※)を示す。

※ 教科の目標値：学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、児童・生徒が正答できることを期待した正答率。

【第5学年における各教科の正答率分布グラフ（横軸：正答率、縦軸：割合）】



【第7～9学年における社会の正答率分布グラフ（横軸：正答率、縦軸：割合）】



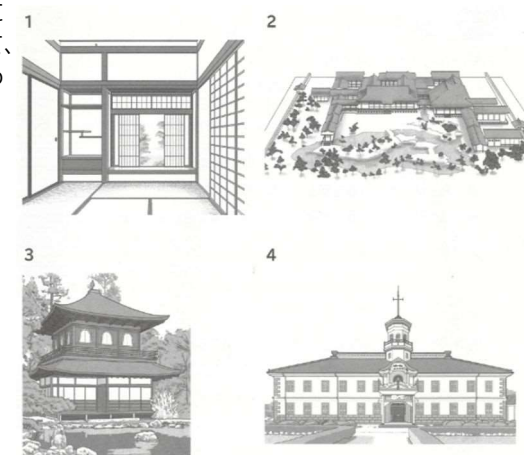
★A層は目標値に達している。B層から目標値に達しない生徒が出てきている。

7 課題の見られる問題例【第7学年】

ねらい 室町文化についての理解をもとに、資料を読み取っている。

3代将軍足利義満や8代将軍足利義政が活やくしたところに発展した文化が、今も多くのの人々に親しまれている理由について、かずきさんたちは先生と次のように話し合いました。そのときに使った2つの資料を、あとの1～4から2つ選びなさい。

かずき「障子やふすまがあって落ちついた感じがしますね。何だかなじみやすいです。」
さとこ「図書館の本に書いてあったのですが、たたみは部屋の空気中の水分を調節する働きがあるそうです。日本の夏は蒸し暑いから役に立ちますね。」
先生「日本には、お客さんを家の中でもてなす文化が昔からありました。その文化は、今の日本にも受け継がれていることに気づくことができましたね。」



正答 ①、③（完答）

室町時代中期に発展した文化は、その担い手が武家であり、簡素で気品がある。その特色は、銀閣によく表れていることをおさえさせることが大切である。

正答率 48.9% 無解答 0.5%
（全国 57.5%、目標値55.0%）

▶7年生社会は、教科全体の正答率が51.6%で、目標値を1.4ポイント下回った。8、9年生でも目標値を下回り、基礎・基本的な「知識・技能」や「思考・判断・表現」の定着が課題である。

★どの教科においても、A層は目標値に達している。5年生の理科では、B層から目標値に達しない児童が出てきている。

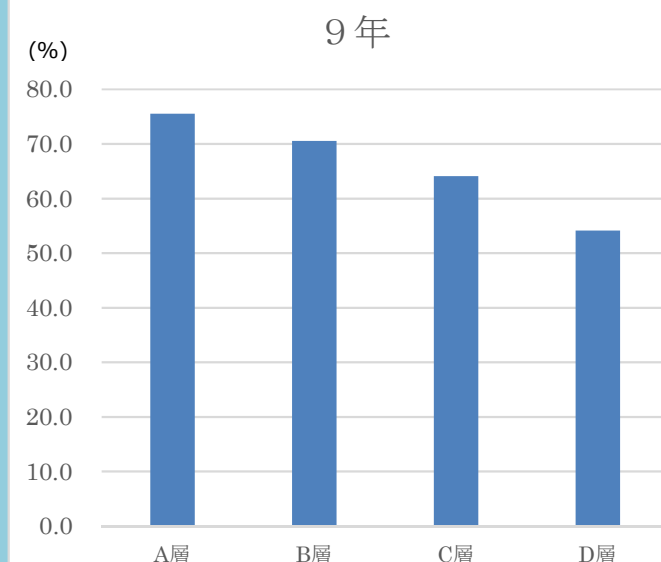
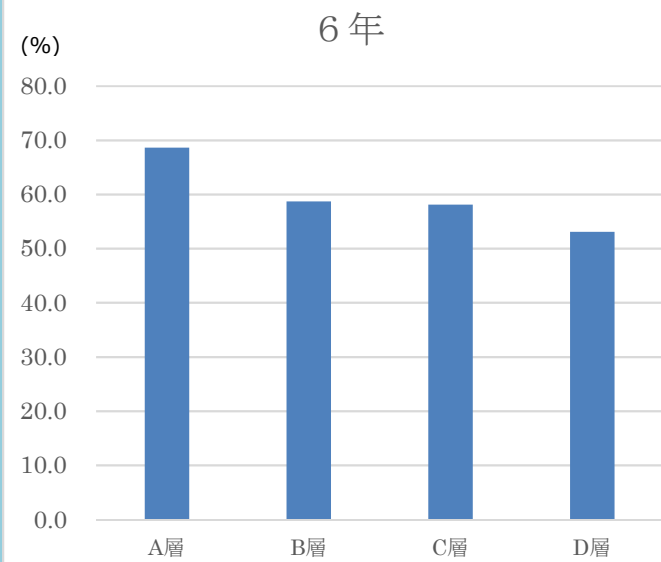
令和6年度 品川区学力定着度調査 クロス集計について

＜クロス集計＞ 区学力定着度調査では、授業や教科等の質問と正答率の相関関係を調査するためのクロス集計を実施している。これらの分析により、指導方法工夫改善等に生かしていく。

（１）教科を統合したクロス集計

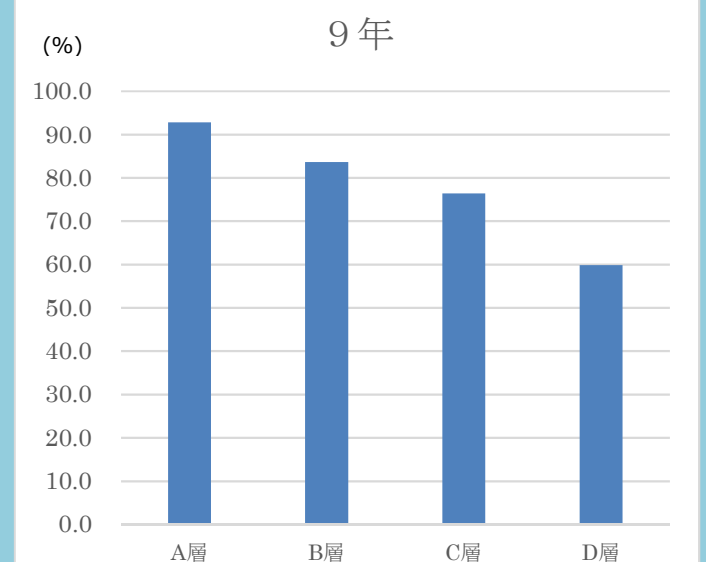
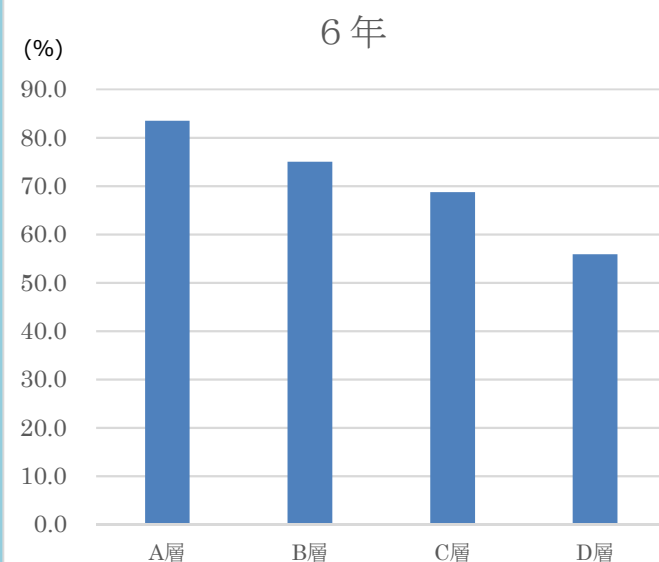
※ グラフの縦軸は、肯定率を表す。グラフの横軸は、品川区の正答率分布を上位層（A層）から下位層（D層）までの25%刻みで4層に分類したものを表す。

○ あなたは、授業や日常生活の中で、不思議だな、どうしてだろう、と思ったことを調べていますか。



6年・9年共に「いつも調べている」「だいたい調べている」と肯定的な回答をした児童・生徒の方が、正答率が高い傾向がある。

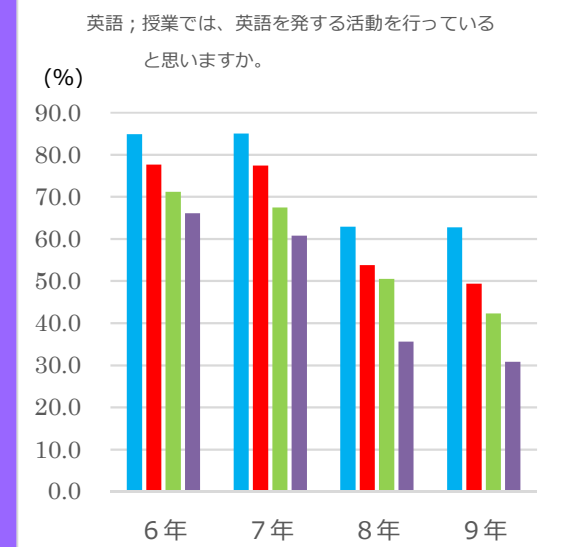
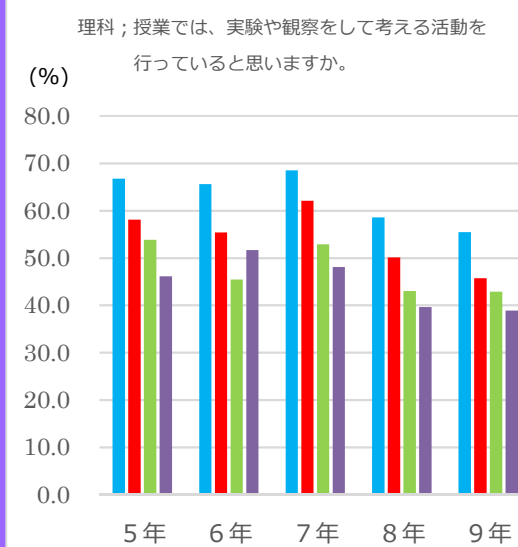
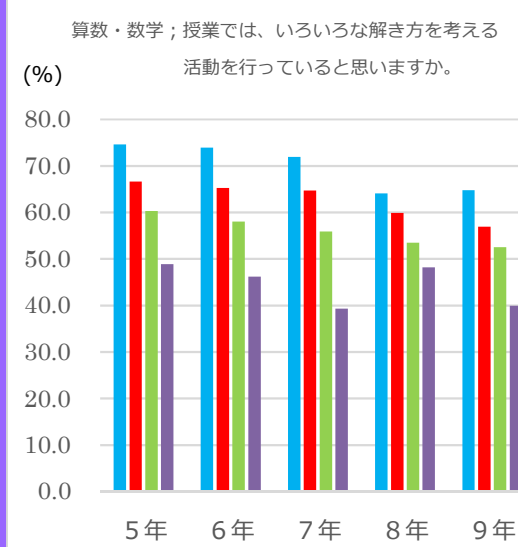
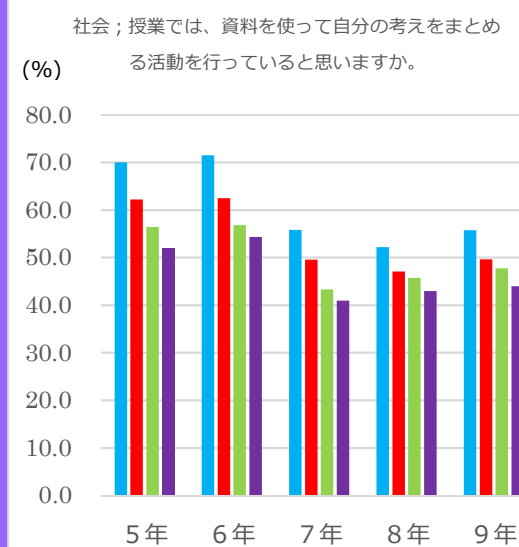
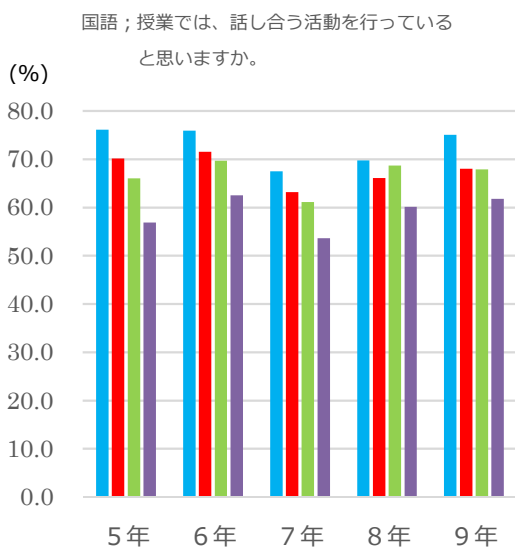
○ テストでまちがえたときは、なぜまちがえたのかを考えていますか。



6年・9年共に「考えている」「ときどき考えている」と肯定的な回答をした児童・生徒の方が、正答率が高い傾向がある。

（２）各教科におけるクロス集計

■ とてもそう思う ■ まあまあそう思う ■ あまり思わない ■ そうは思わない ※ グラフの縦軸は、平均正答率を表す。



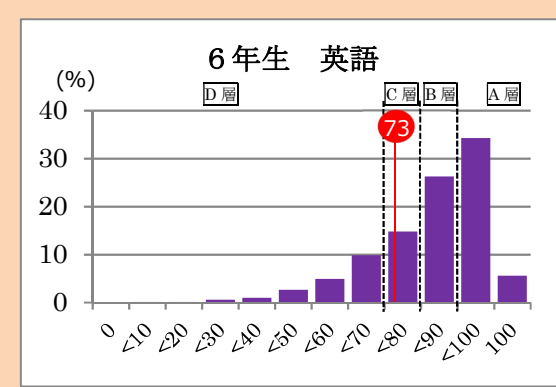
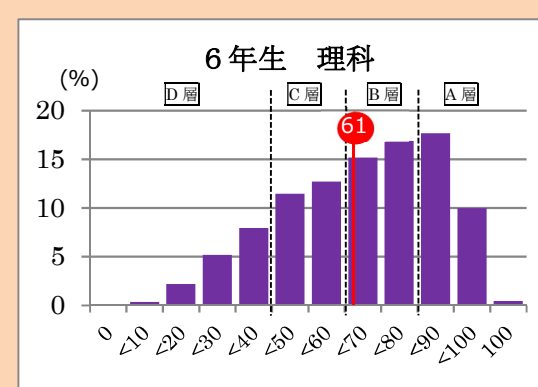
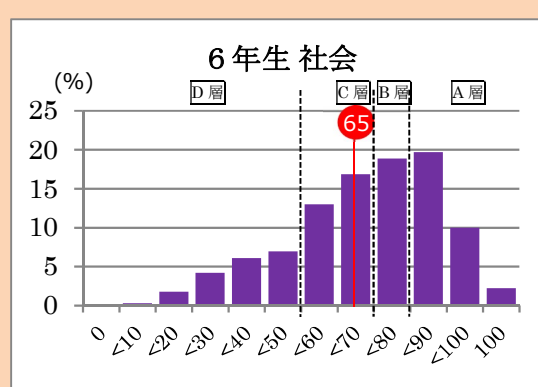
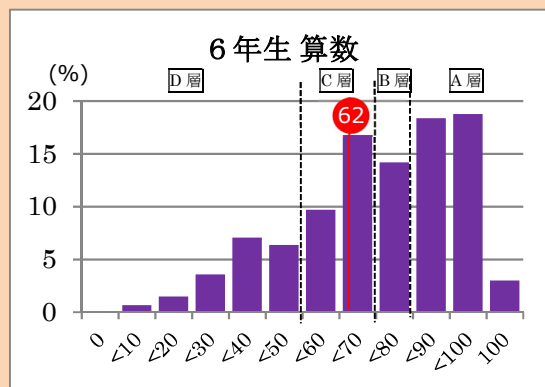
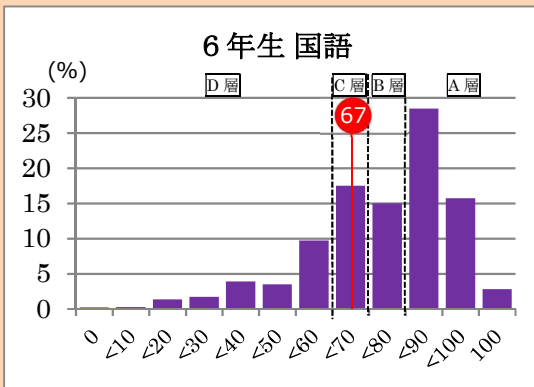
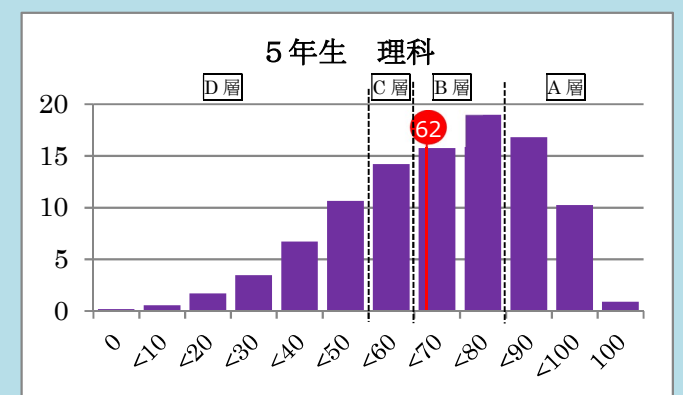
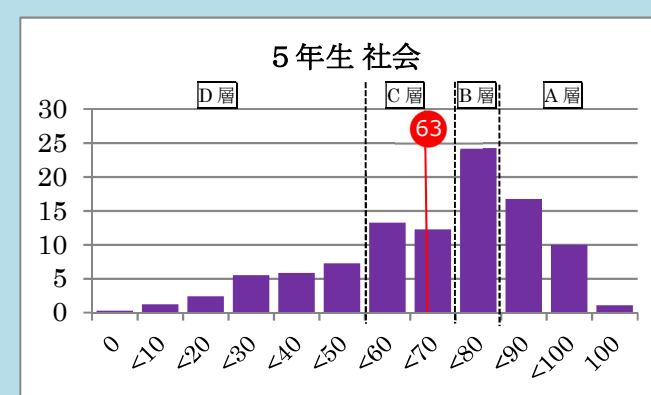
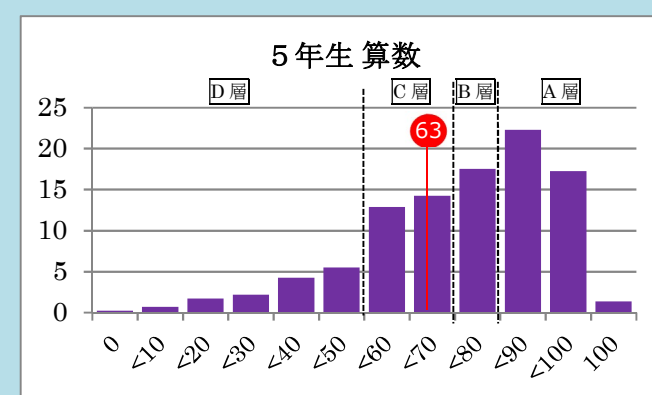
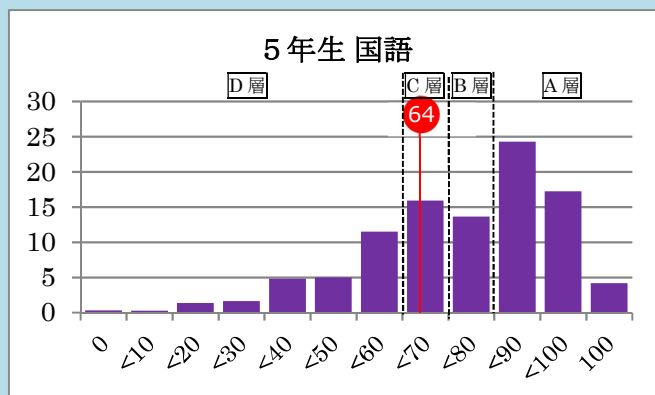
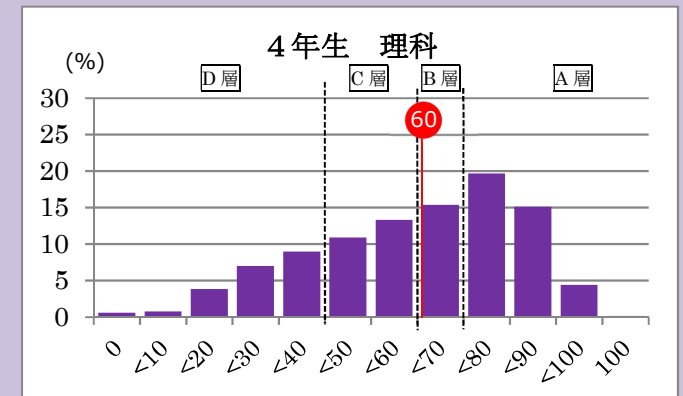
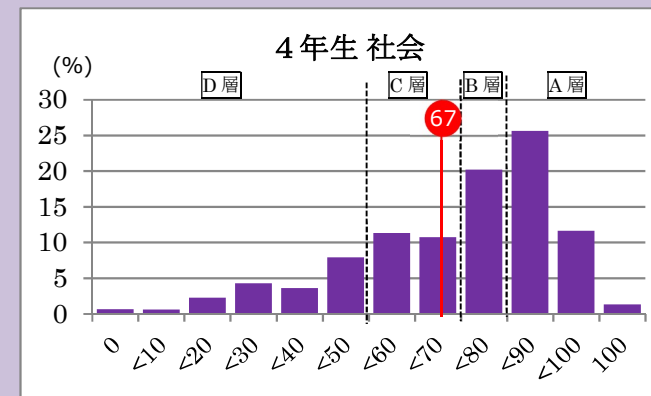
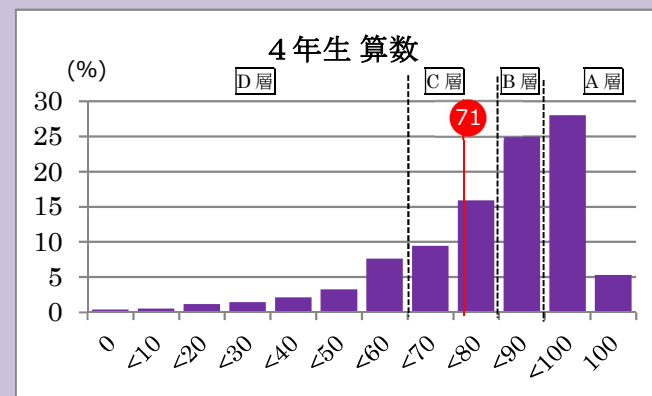
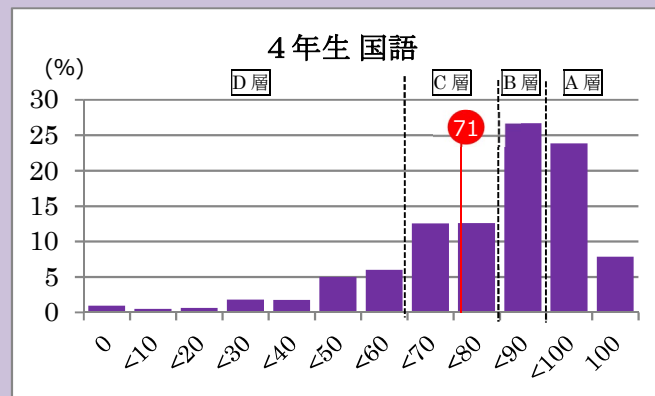
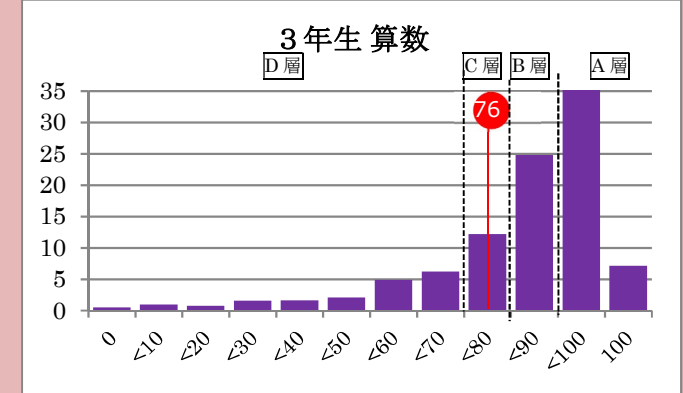
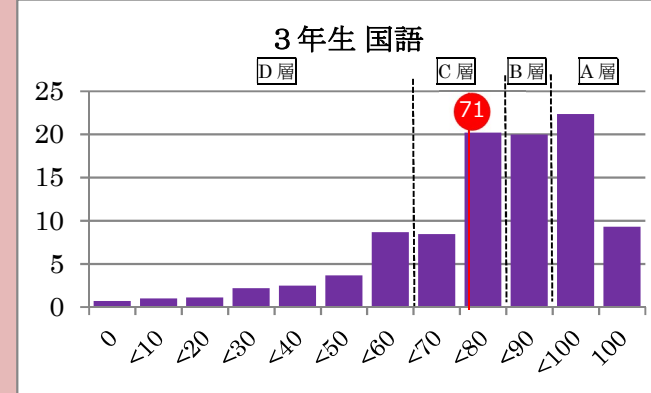
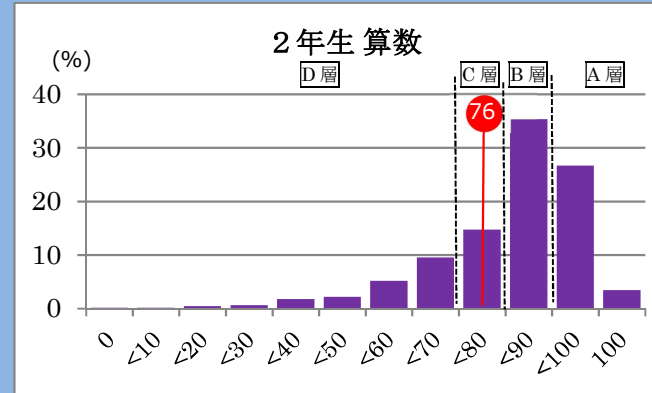
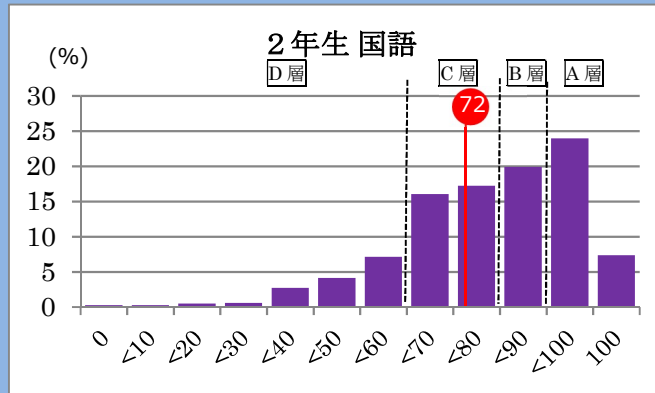
どの教科においても、「とてもそう思う」と答えた児童・生徒の正答率が高い傾向がある。

令和 6 年度 品川区学力定着度調査 正答率分布（小学校および義務教育学校前期課程）

品川区の正答率分布を上位層（A 層）から下位層（D 層）までの 25%刻みで 4 層に分類した。赤線はその教科の目標値(※)を示す。

※ 教科の目標値：学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、児童・生徒が正答できることを期待した正答率。

横軸は、表示の数値未満をしめしている。
例 「＜30」 → 20%以上30%未満
※ただし、0と100はそれぞれ0%、100%を表す。

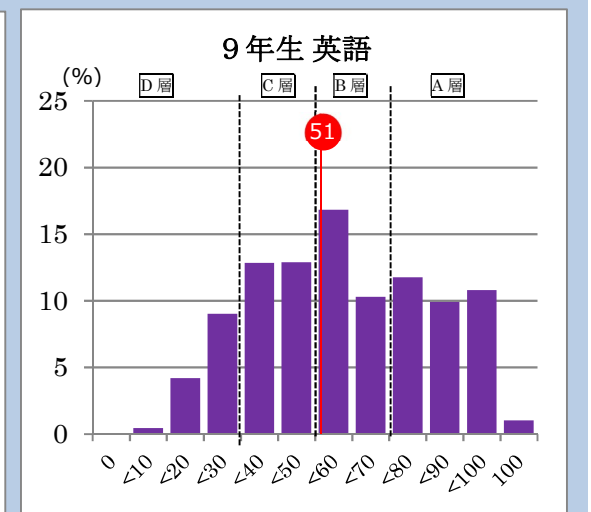
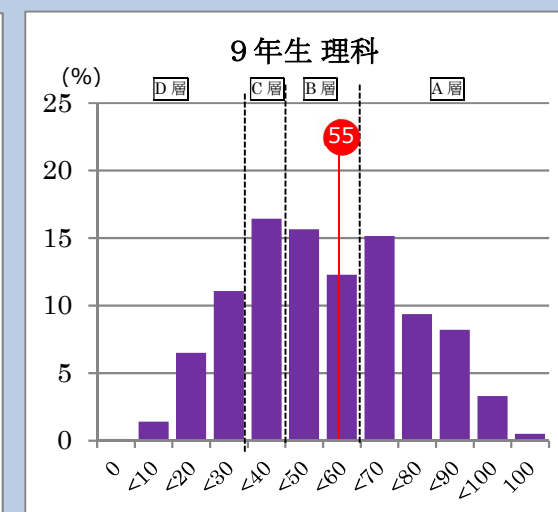
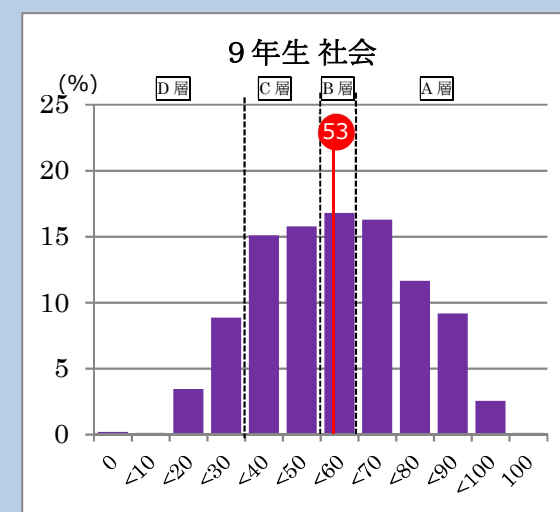
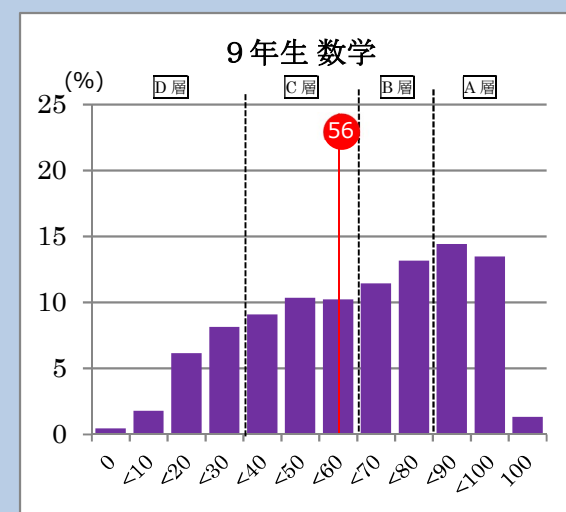
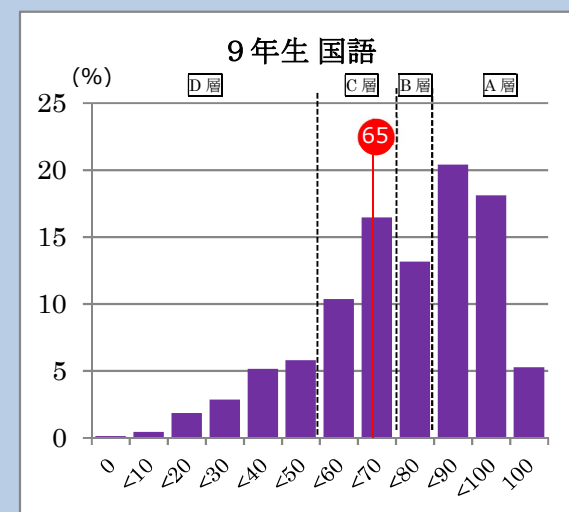
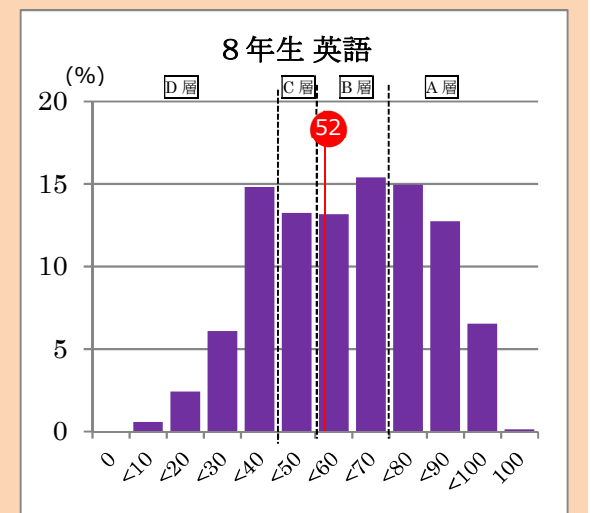
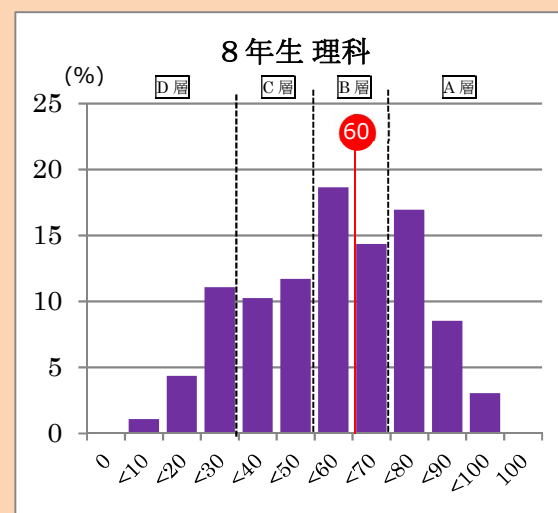
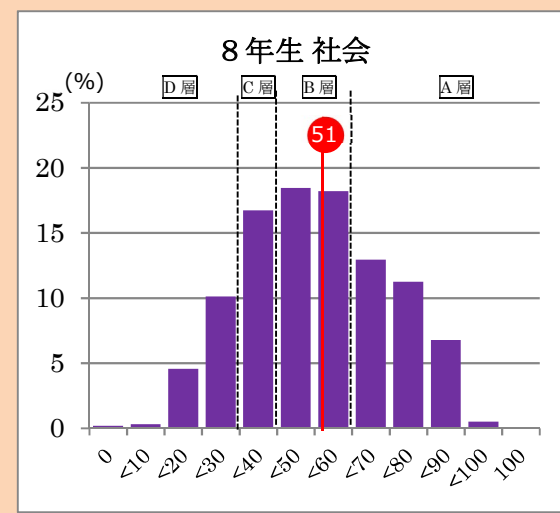
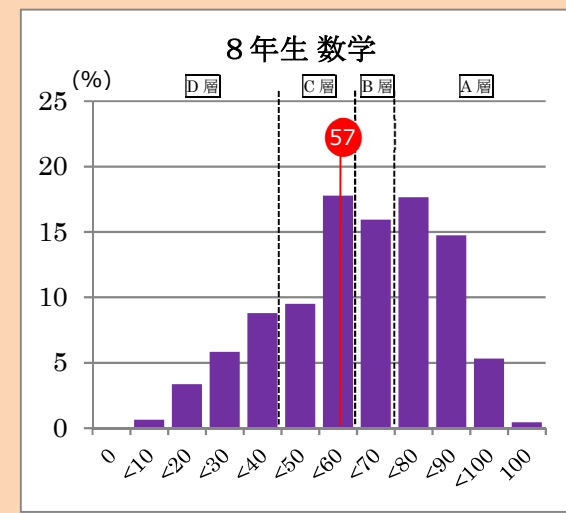
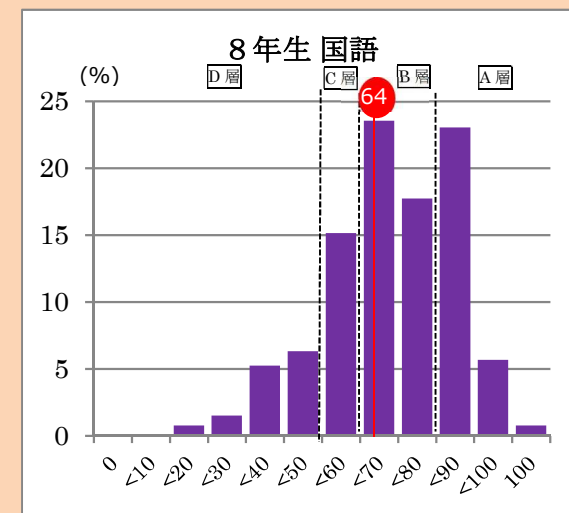
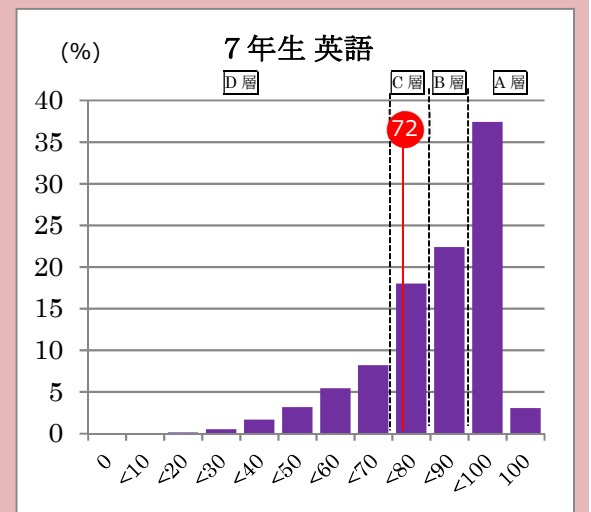
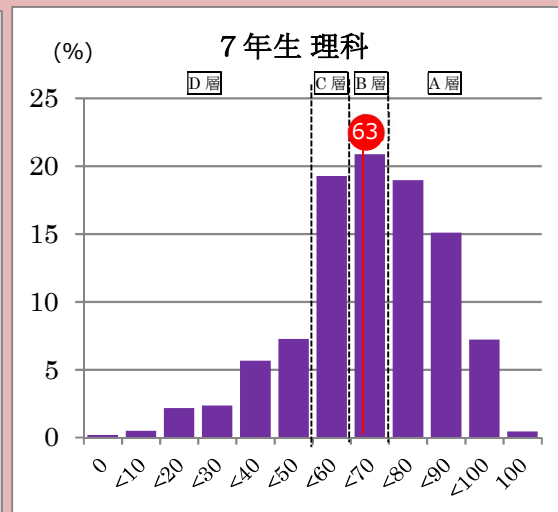
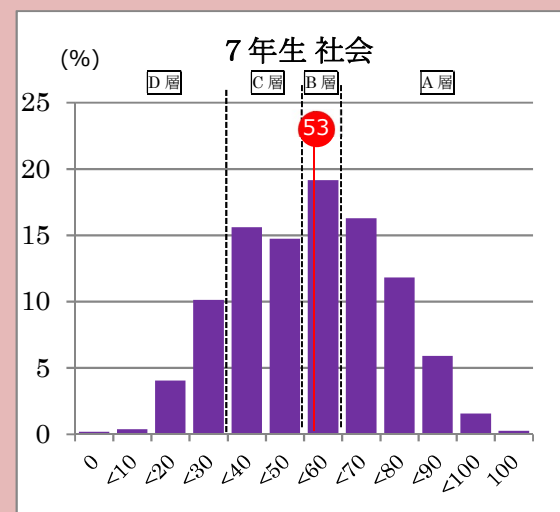
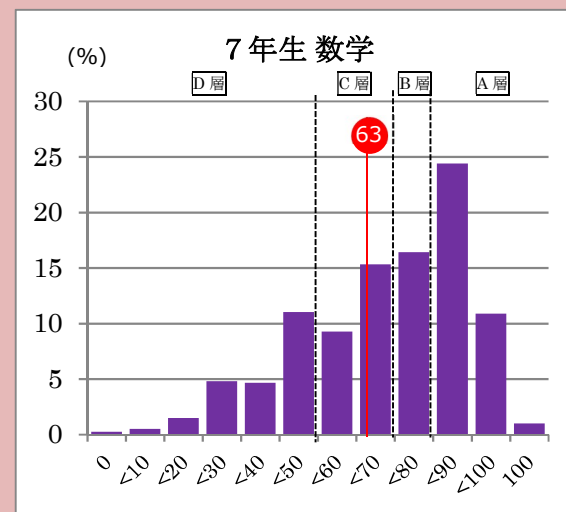
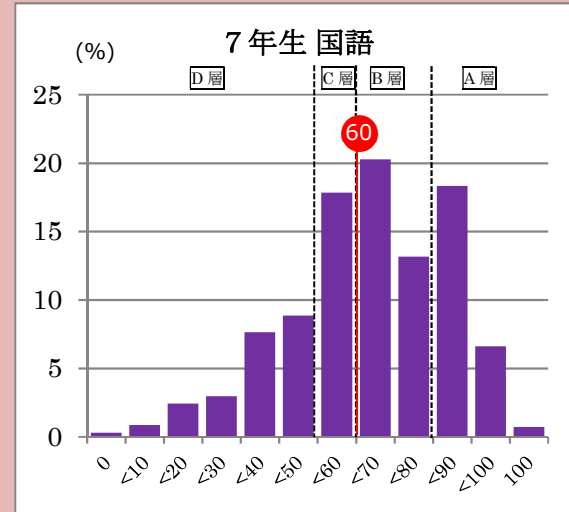


令和 6 年度 品川区学力定着度調査 正答率分布（中学校および義務教育学校後期課程）

品川区の正答率分布を上位層（A 層）から下位層（D 層）までの 25%刻みで 4 層に分類した。赤線はその教科の目標値(※)を示す。

※ 教科の目標値：学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、児童・生徒が正答できることを期待した正答率。

横軸は、表示の数値未満をしめしている。
例 「＜30」 → 20%以上30%未満
※ただし、0と100はそれぞれ0%、100%を表す。



令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果について

- 1 調査日 令和6年4月18日（木）
- 2 調査対象 小学校・義務教育学校（前期課程）第6学年
中学校・義務教育学校（後期課程）第9学年
- 3 調査人数 第6学年 2,644人
第9学年 1,564人

4 調査内容

- (1) 教科に関する調査
国語、算数・数学
- (2) 生活習慣や学習環境に関する調査
・児童・生徒質問紙調査〔学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等〕
・学校質問紙調査〔指導方法に関する取組等や人的・物的な教育条件の整備等〕

5 各教科の平均正答率（％）

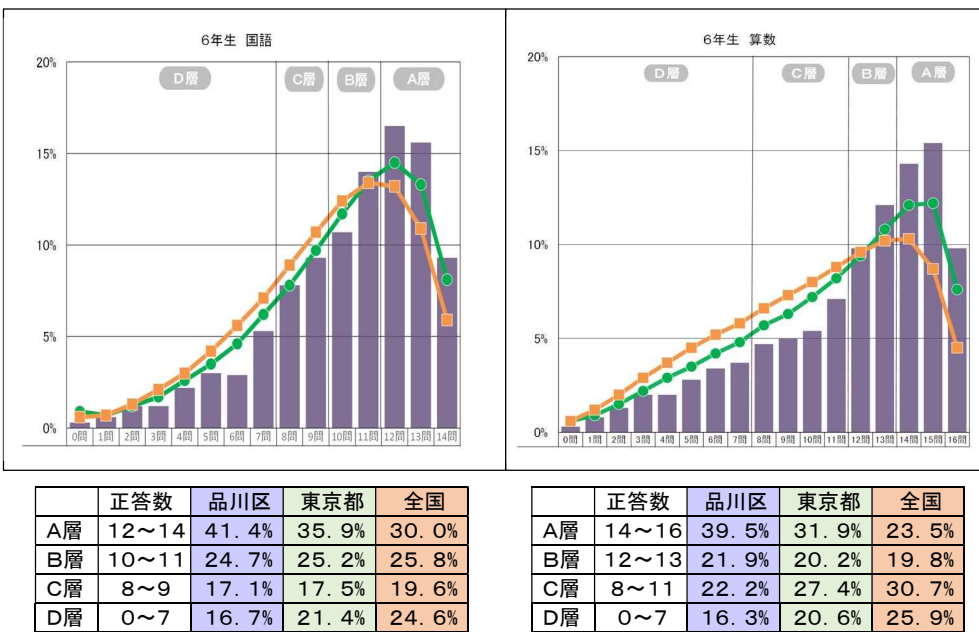
6年	品川区	東京都	全国	9年	品川区	東京都	全国
国語	72.6	70.0	67.7	国語	60.7	60.7	58.1
算数	72.5	68.1	63.4	数学	58.1	56.9	52.5

6 教科に関する調査の結果概要

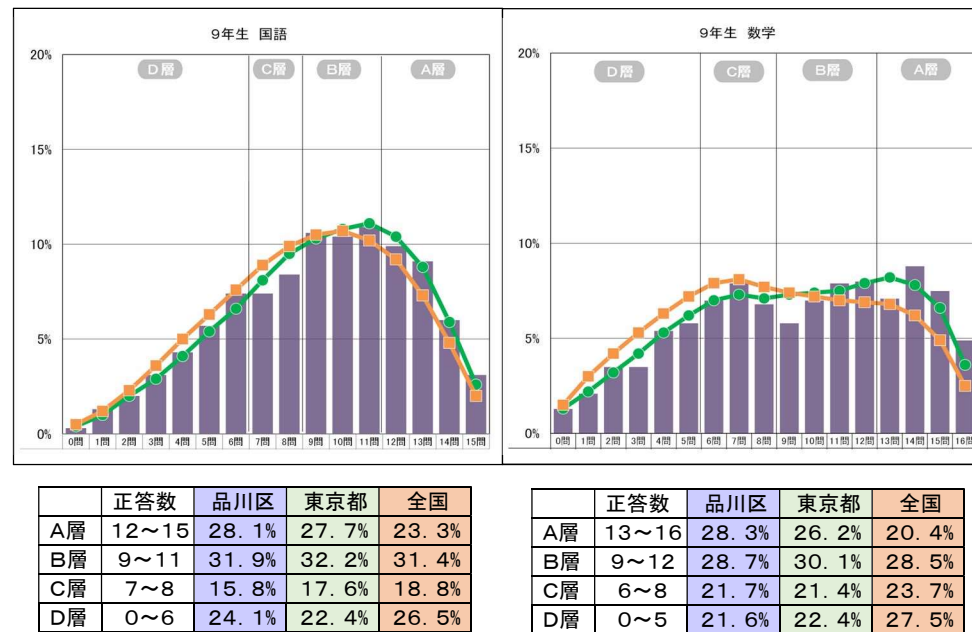
- 上段 【正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）】
- 下段 【東京都と比較した品川区における各層の割合】

東京都の正答数分布を上位層（A層）から下位層（D層）までを25%刻みで4層に分類し、品川区および全国における各層の割合を示した。

小学校・義務教育学校（前期課程） 第6学年



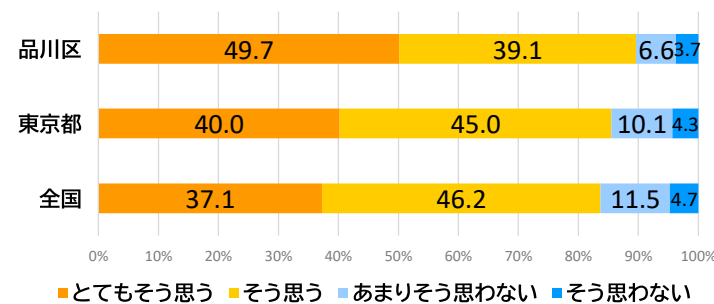
中学校・義務教育学校（後期課程） 第9学年



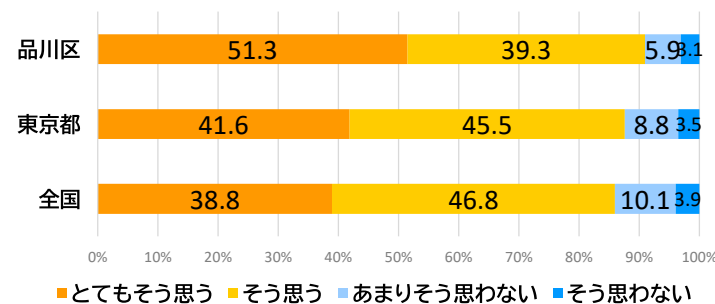
7 成果がみられる質問

中学校・義務教育学校（後期課程）において、英語を聞いたり、読んだりして（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動が行われている。

＜生徒質問紙＞1、2年生のときに受けた授業では、英語を聞いて（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか。

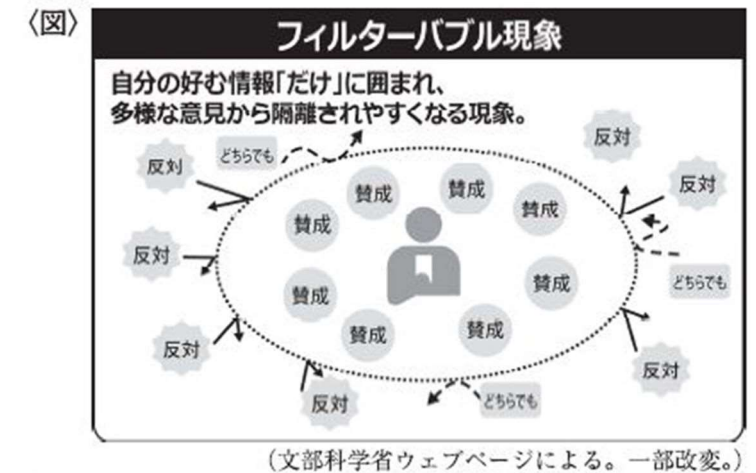


＜生徒質問紙＞1、2年生のときに受けた授業では、英語を読んで（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか。



8 中学校国語「話すこと・聞くこと」について、課題が見られた問題

趣旨：話し合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができるかをみる。



〈解説〉インターネットで検索したり閲覧したりした履歴が、使用した通信機器などに記録され、解析されることで、その利用者の好む情報が優先的に表示されるようになる。一方で、好まないと判断された情報は、はじかれてしまう。このような、情報の隔たりが生じたり多様な意見に触れにくくなったりする状態のことを「フィルターバブル現象」という。例えば、野球についての検索を多くしていると、次第に野球に関する情報が優先的に表示されるようになる。

〈問題の概要〉話し合いの話題や発言を踏まえ、「これからどのように本を選びたいか」について自分の考えを書く。

（正答の条件）次の条件を満たして解答している。

- ① フィルターバブル現象の特徴について取り上げながら、これからどのように本を選びたいかを具体的に書いている。
- ② 【話し合いの一部】の誰の発言と結びつづのかがわかるように書いている。
- ③ 実際に話すように書いている。

（正答例）・今井さんが言うように、フィルターバブルには好みに合った本を選んで示してくれるという便利な面もあるし、藤田さんが言うように、それ以外の本に出会いにくくなることもあるので、本を選ぶときには、インターネットと図書館などを使い分けたいと思います。

（誤答例）・今井さんが言うように、フィルターバブル現象には好みに合った本を選びやすいという便利な面があると思います。

（誤答例）のように、条件②、③を満たし、条件①を満たさないで解答した生徒は20.4%であった。また、条件①、③を満たし、条件②を満たさないで解答した生徒は12.1%であった。それ以外の回答による誤答が12.9%であった。話し合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることに課題がある。

自分の意見を適切に構成し、他者の発言との関連性を見出す能力を高めるために、他者の意見を傾聴し、それを受けて自分の考えを発展させることは、協動的な学習において非常に重要である。また、読解力や文章力の向上が重要である。

	品川区	東京都	全国
正答率	46.0%	48.4%	44.7%
条件③を満たさない回答	0.0%	0.0%	0.0%
条件②を満たさない回答	12.1%	14.0%	15.2%
条件①を満たさない回答	20.4%	17.3%	16.8%
それ以外	12.9%	11.9%	13.3%
無回答	8.6%	8.4%	9.9%

※小数第二位以下を四捨五入